

水との旅

光塩女子学院 初等科

四年B組

大橋 おおはし

柚希 ゆき

私は一学期に校外学習で、羽村取水せきに行^ってきました。川の水の流れがとても速く、
 ておどろきました。そこでは取水せきの形が
 あみのようにな^っていて、不思議だな^あと思
 いました。後で調べてみると、投渡せきとい
 うそうので、大水の時には、けたと丸太をはが
 して投渡木ごと川に流してしま^うそうです。

1

そうすること、水門を守り、私たちの水道の
 始まりである玉川上水をこわさないようにす
 る工夫がされていることがわかりました。

2

羽村取水せきからバスで移動して、小平市
 にある^コ小平市ふれあい下水道館^ニにも行き
 ました。実際に大きな下水道管の中入^ったの
 ですが、とてもくきく^てすぐ^に出てきました。
 私たちが流している生活排水や、自然^ニから降
^ってくる雨などがこの下水道管に毎日^のよう
 に流れてきていることを知り、下水道管の中

はあまりかおたくなり匂いだ。たけれど、大水の時に洪水にならないように水を引きこんでくれているので、私たちの生活に欠かせないものなんかな、と思いました。

羽村取水せきから水の道をさかのぼると、小河内ダムがあります。前から興味を持っていたので、家族で小河内ダムを見に行きました。とても広くて、思わぬ大声を出してしまいうほいびくくりしました。東京の水を貯めるのには、こんなに巨大なダムが必要なんだな

と感じました。この大きなダムを作るのに、どのくらいの間がかかったのでしょうか。ダムカードによると、十九年もかかっていたそうです。その小河内ダムの横には、詞がまかまられたるがありました。今ダムがあるところに、は昔、村があつて、ダムを建設するためには、その村に住んでいた方々は移住をしなければいけなくなりました。ダムの横にあつた石は、その方々の水にしかむ故郷への思いをきかんだ詞だそうです。私はその石を見て、とて

も切なく感じました。その詞は、字が少し難
 しかつたけれど、今の私でも読んだだけでそ
 の悲しい気持ちがいじりたりと伝わってきまし
 た。十九年という長い年月をかけて作られた
 小河内から建設の前には、村に住んでいた
 方の苦しい苦しい移住があったからこそ、多
 摩川水系の水が成り立っているんだな、と思
 いました。ですから、移住してくださった方
 のことを忘れてはいけないと思います。

ダムの近くにあつた奥多摩水と緑のふ

れあい館では、人が入れる土の中の模型に
 入りました。土に見立てた布は、ふかふかと
 さらさら加混じった感じで、上からふらさか
 っている根っこは太くてしっかりしていまし
 た。そういって土は、健康的な森の証で、水
 をゆくりしきませてもらってきれいにしたり、根
 こでふんばりして土砂災害などを防が
 る事を体感することができました。

少し前に読んだ新聞の記事に、水にあま
 り困らない日本でも、水不足はひとごととい

うおけにはりかない。バスターデータ
 (仮想水) という考え方があり、いろい
 食糧物などを輸入すれば輸入先で使
 利用しているのと同じことになる。東
 教授の試算によると、日本は海外農
 入で三千年度には海外の約六百四十
 水を輸入したことになる。という内
 ていました。こういって広い考え方を
 聞きました。私の毎日の生活にも関
 るのかな、と思いました。なぜなら、
 海外産

のお肉や野菜などを私たちが毎日食
 いて、それを作るのには現地の水が
 もし水に困っている国から色々なもの
 していたらその国から私たち人間が
 に大切な水をうばってしまっている
 られるからです。難しい問題ですが、
 の事について、今回のように時々考
 を作り、しよう来その問題を解決で
 変りたいと思います。このように考
 このように、私がおだん使っている
 水道が

ら、羽村取水せき、多摩川、小河内ダム、水道水源林までさかのぼってみて、日本は水にとってもめぐまれているな、と実感しました。そして、新聞記事にのって見たように、海外の水不足の問題も私と関係があるということも分かりました。地球温暖化の原因で水に困っている国もあると思います。地球温暖化を止めるために今すぐ私にできる、コンセントをこまめにぬく、水やシャワーを出しっぱなしにしない、使わない電気を消す、ゴミを少なくするといいた工夫を少しお家でもしなければなりません。この小さな日々の取り組みが、世界の水不足の解決につながるかもしれないと思います。

たらくするといいた工夫を少しお家でもしなければなりません。この小さな日々の取り組みが、世界の水不足の解決につながるかもしれないと思います。